

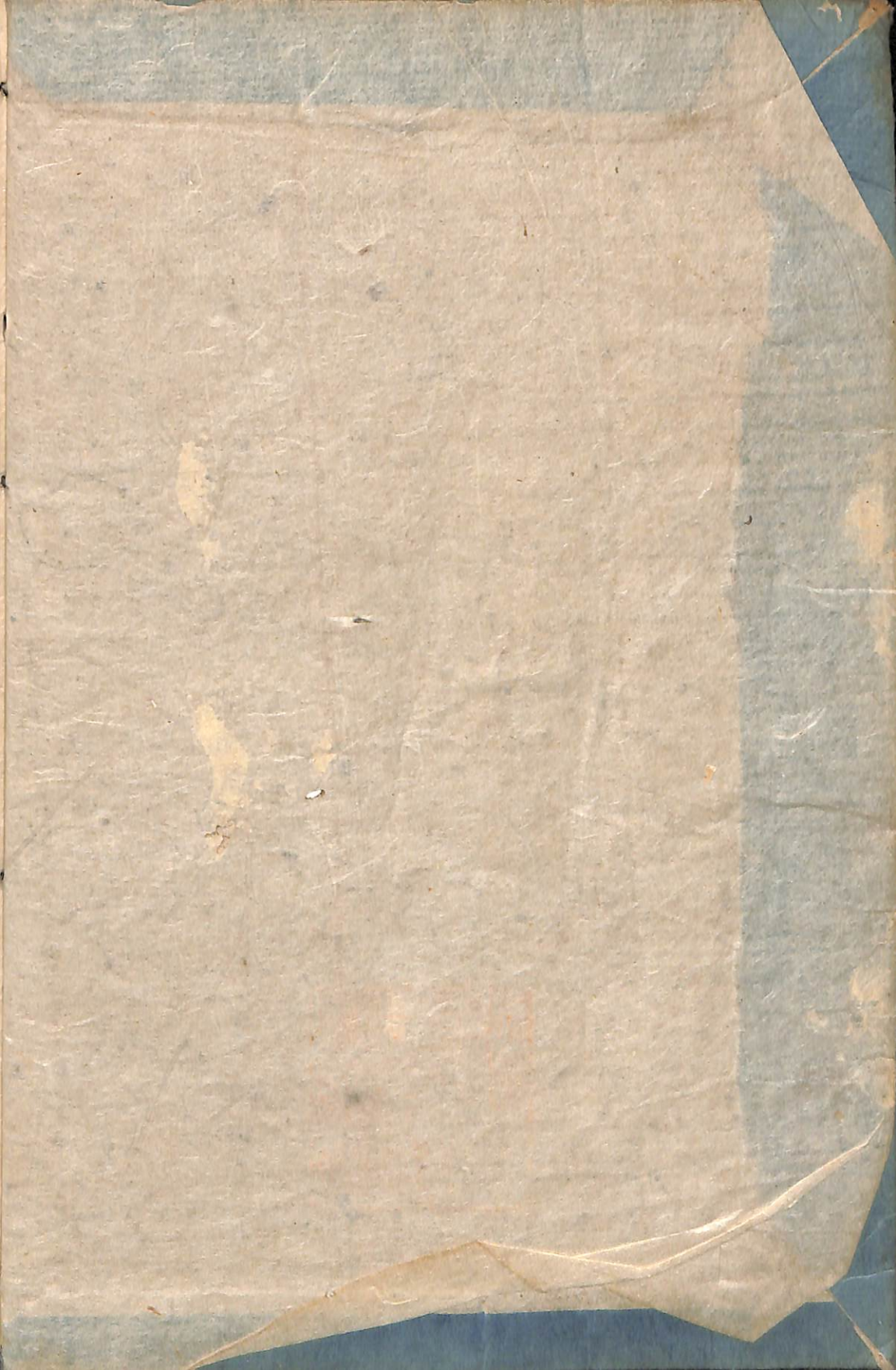
911 3  
八  
2

能譜七部集

炭俵

二

Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely Chinese or Japanese, running down the left side of the page.





けつやいしと乃きくのもひいふはくわと例めは  
似せしものありしと歸くことふありしと木ありし  
ひと目芭蓋拂りの音途よや川にわきを携て  
面とのおとせりし川此木の集の下よなてふのを  
おのゝ取より木梅の下よいりくありし炭のた  
早とくらしとてふりし炭よいりしとてハ誰せ  
くらしと結くらしとを小字せりしとてとみ  
くらしとやせきとをそと木葉とありしとこのせめて

とてしとるかしてよとて携てわつれぬ今けきと  
いふかへ其初をおとて歌号よのつとらとら  
ありしと年とつとらほつとらほありしととらと  
はくむとてふとてふとてふとてふとてふと  
はくむとてふとてふとてふとてふとてふと  
はくむとてふとてふとてふとてふとてふと  
はくむとてふとてふとてふとてふとてふと

元禄七の年

元禄七の年夏間とて初之乃日あは

誦諧炭俵集上卷

芭蕉

むちえんたのつと日乃出る山流る

ましくり雑子乃常一多は

ふ交普徳とまのふまきこらわ行て

上乃ふまきやーしめうるま乃五

空乃内ほくことせはまら乃全

最誠をるれあまの月乃一む

内<sup>ウ</sup>政へ兼もくもるもめいわ久は

娘を異り人しあはゆめぬ

あゑんくうひおたうー<sup>ホッ毛十</sup>る細基子

くくくく向るふくめ 六は

強けいふまうそわにや向は存

甲しといふあはふ繁まのこり

終る尾乃おおと押へる

くんにやぬをうらまらるる名月

野坡

全

芭蕉

全

野坡

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉

野坡

芭蕉

たつ下よ糸を垂下地 委しえ 野坡

案とおもひし 是念ひとぬふ 芭蕉

町流名流らふと 碎て糸乃流 野坡

門に押 流し 五生念念 芭蕉

右 東風より 喜まひ ぬれと 吟す 全

糸 流らふ 流らふ 流らふ 野坡

江戸 流らふ 流らふ 流らふ 芭蕉

之 流らふ 流らふ 流らふ 野坡

芳し 流らふ 流らふ 流らふ 芭蕉

根 流らふ 流らふ 流らふ 野坡

門 流らふ 流らふ 流らふ 芭蕉

り 流らふ 流らふ 流らふ 野坡

七 流らふ 流らふ 流らふ 芭蕉

又 流らふ 流らふ 流らふ 野坡

流 流らふ 流らふ 流らふ 芭蕉

た 流らふ 流らふ 流らふ 野坡

こゝろ家も素乃老しり 志をあらけ

野坡

美下り 谷阿一 七すあ 新一坡

芭蕉

子よ 晴一 夜し 玉室く 春水

野坡

未 色 素 高 乃 も し れ 多 甲

芭蕉

院 一 是 知 せ ず 塚 と 里 丸 あり

野坡

屏 風 乃 陰 子 び ぬ ら ころ 一 盛

芭蕉



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '芭蕉' and '野坡'.

三吟

山嵐雪

曇母老の延織々水あけりし水  
あさみや首了り雀結 老るる  
けりそそ若乃小返若うじありて  
おをばさくくハ團おお撰漢  
あくと朔日く乃乃空さるる  
又移ちる 兎物もおとけし

利牛 野坡 嵐雪 利牛

活染をあらふ流り乃そけん

嵐雪

あらしこち流れを登るる

利牛

深きノ音之城を降りて流

野坡

てうへへへへもあつるいわわ

嵐雪

急谷乃在ちや思詩を聖後段

利牛

五百のうちやを二後けん

野坡

細ぬき乃のちまら流あつる

嵐雪

人あつるわぬねね思む

利牛



龍俊乃龍也下世之日之也

野坡

服心也下世之日之也

嵐雲

湖と雨降り也下世之日之也

利牛

龍一龍也下世之日之也

野坡

名  
龍二乃九也下世之日之也

嵐雲

探探子乃小原を以て

利牛

とくしと河田乃荷持送而也

野坡

心乃海の著る世に也

嵐雲

壻の身は娘の世に也

利牛

ことし乃これなり也

野坡

彦仙乃孫也

嵐雲

比ふわいの乃小原也

利牛

黍米名物也

野坡

多懐乃喧嘩なり也

嵐雲

少くもなり也

利牛

今より庄や若くは也

野坡

夢子さうさうつし又せりたてふに

山雪

うらわしとゆふのありあし

利牛

後余のほまのせいにさくはら

野坡

うらわしとゆふのありあし

山雪

後余のほまのせいにさくはら

利牛

うらわしとゆふのありあし

野坡

後余のほまのせいにさくはら

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

うらわしとゆふのありあし

山雪

あ、川  
お、お



孫屋

空を乃おはたむに名まの紙  
登乃ふ鶴もさるゑ海川  
上張を過さぬ侍と乃向降と  
了つと乃とけり酒名家申  
右程交りし誰もおとそぬまの月  
とよおと唄乃とらふあふと

芭蕉  
出水  
利牛  
若蕉  
孤屋

お、お  
乃乃仕中乃工是は家名  
妙をよい愛うくまうくしるめ  
傍都もんととくまの文をた  
用子くお明うけ名啼わわ  
家の方すれとあをを見たり  
能汁わいの者よあよとわ  
茶名もつとをけりまあ

利牛  
芭蕉  
出水  
孫屋  
孤屋

こ乃ちハとうやう若名端かな  
利牛

うれし一柳を今に非し  
岱水

電乃法以さうしあま臆自  
孤屋

ふしん丸くても乃おもんみ  
芭蕉

不名聖なる波と中乃あまな  
岱水

こつち燈をよとあこし  
利牛

浪下るる上るるに業事ほら  
芭蕉

墨水はまじりしあまを  
孤屋

若名すくすくしてねえは行を  
利牛

客を送りて抱え焚臺  
岱水

今入るに音乃名声とねえ  
孤屋

よ貴はしよとほめられた  
芭蕉

息災より細足乃きり乃あま  
岱水

徳思ふしぬ七文乃  
利牛

お月名すに今とて草  
芭蕉

はらりしあま荷ぬ  
孤屋

少乃之乃之刺若西也山乃之乃之

利牛

山乃振際若乃孤乃乃之乃之

空水

よこ空乃乃之乃乃乃乃乃乃

孤屋

晒乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

利牛

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

芭蕉

余乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

空水

空芭蕉

孤屋

空水

利牛

各九句

百韻

利牛

ふと裸足たてきて又為ふ  
山原のふらふらめき白の 咲  
るあふれ珠粒魚鱗の鳴りして  
と力町ふわむふ 神ふれ  
平竹の葉もこの紐たふらうと  
まごう 龍わたりわく人あう

野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋

さる乃月丁集ふ 若けあらく此  
採る法いづ 標らわく  
らうふふ中てふわ出はるはあ  
坊さしりまねとやふたにふん  
松崎やま川へとらけいづ通る  
鳴しし所とつき 園えんあ  
十二二糸乃衣あふあうらひ  
本堂はけらるるるるる

利牛 野坡 孤屋 利牛 野坡 孤屋 野坡

口乃安とる方とありむ竹乃免 孤屋

只茶の器はよとく 利牛

巡記路乃とる君の御を以て 野坡

天の下の御よとる月乃魚 孤屋

生たるとありて折也ひり 利牛

撫乃とる君の御を以て 野坡

第とる乃屋の連とる茶の御 孤屋

此の御とる乃人とるて 利牛

清くこと之口とる乃いほい 出 野坡

清くこと之口とる乃いほい 出 孤屋

ない油を振してみても油は 利牛

衆ね乃とるもとる乃 野坡

清くこと之口とる乃いほい 出 孤屋

出ふ乃とる乃今日を大早 利牛

切煤乃喰倒しとる 野坡

くく納豆を仕也 孤屋

糴 日とちぎしうをむけり

利牛

糶 糶してすけ大なるは乃重し

野坡

糴 糶あふ乃をむけり

孤屋

糶 糶た乃を重し

利牛

糶 糶れ乃を重し

野坡

糶 糶い乃を重し

孤屋

糶 糶つ乃を重し

利牛

糶 糶て乃を重し

野坡

糶 糶遠比概と檢乃重し

孤屋

糶 糶い小之を重し

利牛

糶 糶遠を重し

野坡

糶 糶師を重し

孤屋

糶 糶解橋乃を重し

利牛

糶 糶天満を重し

野坡

糶 糶度袖を重し

孤屋

利牛



然 志 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野坡

甲 号 五 五 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

孤屋

月 表 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

利牛

弦 亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

孤屋

横 堀 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野坡

小 登 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

利牛

根 據 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

孤屋

裾 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野坡

表 細 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

利牛

表 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

孤屋

物 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野坡

又 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

利牛

表 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

孤屋

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野坡

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

利牛

一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

孤屋

新乃月

野坡

大あさふさる 表乃 崎あうい

利牛

<sup>三</sup>かき 終し 生理に 穿けり 野のあ

孤屋

ふたのみ 一と 是 徳たむ 一と

野坡

か けり 中 夫 己 乃 けり 上 乃 けり

利牛

入 乃 けり 人 乃 けり 味 乃 一と 一と 出 乃 けり

孤屋

才 乃 けり 一と 乃 木 乃 崎 乃 新 乃 田 乃 川

野坡

此 乃 けり 一と 乃 けり 一と 乃 けり 一と 乃 けり

利牛

けり 一と 乃 けり 一と 乃 けり 一と 乃 けり

孤屋

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

野坡

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

利牛

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

孤屋

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

野坡

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

利牛

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

孤屋

あ 乃 けり 一と 乃 崎 乃 一と 乃 崎 乃 川

野坡

大乃あぐくに知の砂乃りて

利牛

何年を捉しきぬ枋の木

孤屋

美々下ら口心乃あそと純

野坡

丸の十の海成わりのふ

利牛

扱弁もそとまたたつてし

孤屋

足乃の茶條より供にま

野坡

里離とつれ引乃あつてし

利牛

やまのうらのを娘乃縁りも

孤屋

字にうも桐り志すの極色若

野坡

うんち果るるハ昔乃色

利牛

丁寧に仙履儀乃口いわ

孤屋

所後、海と土よにならぬ

野坡

夕月に醫者名あまをすまの

利牛

色と居るに鏡乃やきもの

孤屋

名  
定免を今年名風と懸屋也

野坡

も七也仕るもたすぬやと

利牛

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Multiple lines of faint, illegible handwritten text in the upper section of the page.

Main body of handwritten text, consisting of several lines of cursive script.

Vertical text on the left margin, including characters such as 野, 流, 利, 野, 孤.

Small handwritten characters at the bottom left corner.

Small handwritten characters at the bottom right corner.

春之部 穀句

五言

蓬萊尺丈之也 伊勢若和使

若進

車中もやまの戸さつれうはれ

福子

みちのくえんふ 雲 朝心 雲の海老

杉風

去也 統ふ 無波 足 藤 子 海老

去来

刀 山 以 俚 も 可 也 今 朝 の 去

去来

いろこしき 春を 春乃かき 春を 春

酒堂

喰つてや 木 昔乃 くらを 山の 櫻 花

櫻火

花の 春 門 流 流 色 の 春 統 五

流圃

因 下 に 中 中 何 也 年 春 何 也

孤屋

秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋 秋

秋字

長 柳 秋 秋 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野坡



梅

梅一亦ついでし茶乃乃あめうな

露沾

むめ咲や何乃梅木名よまきり

曲梅

むめう香の糸にまきりまのり

支考

寒乃うちを  
みこし

早頃

むめしらむい糸乃是きりのり

土考

梅はむえ過辰のいりまきり

利4

芥みうきりいそとめくわむめのみ

藤石

みらり(す)咲うらりい梅のみ

野坡

あ梅より梅りまきりあ戸外

杉風

あふく(さ)もの  
てんけいあまをみ

とくまきり初りうらりい

山事

七葉や梅いあうけり切

野坡

うらりむれりすうな梅あ八腫

仙杖

法も乃之ききしり

海舟一とつともわくうきうき

去来

六々や 蝶乃 出しすよ 蝶内

傍

必州

かきん有すきききききききききき

仙花

心 海舟 入るききき

書 関 作 や きききききききききき

利牛

十五りきききききききききき

大坂

之石

揚乃 遊 初 入るきききききき

野坡

かきききききききききききき

書看

寫

い ぬ け け け け け け け け け

嵐雪

きききききききききききき

其石

い ぬ け け け け け け け け け

桃流

うさねや門をたぬく至腐る矣  
雪も心つらき一由念を入るるも

野坡  
利牛

柳

こゆををもうしし柳一柳の家

湖春

海ふど一自乃春ひん柳の家

春野

わんふらふらしきし柳一の家

野坡

せきまのり尾を又付くし柳一風

一風

所大ゆうへきしし宿まの柳の家

利牛

傘一柳一わらふらふら柳の家

芭蕉

橋

去るにぬ羅りしちぬ橋の家

孤塵

柱もくゆぬ家を橋の家

湖春

念入してきくつほむ橋の家

曲水



振り〜〜〜みせてもつ〜  
 嵐寺  
 ちかぬも〜  
 松  
 野坡

花

今半  
 之乃あんふまわ侍〜  
 華六 侍よものま〜  
 ま〜侍〜

の松〜

ぼ〜  
 芭蕉

や〜  
 杉風

こ〜  
 土野

乃〜  
 高〜

中〜  
 志保

赤〜  
 志保

初〜  
 孤屋

あすこゝあえりゆりあまのたれ

新二

たうれてもあめりこゝまゝあゝ

耕農

柿乃あめゆりあまのたれ

山技

牡丹すゝ人もあゝあゝあゝ

湖島

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

其角

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

元雪

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

大伴

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

大伴

誰れもあゝあゝあゝあゝ

祐市

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

常全

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

和牛

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

全

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

孤五

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

彦成

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

全

上己

希得る川乃水もし汝乎也

沾法

登舟りて乗る也舟一この船乃水

船水

うつさ乃船もいささく舟の難

其意

器乃る乃、解を弄るもいささく

如行

凡事汝をてりてはさる也船の事

舟波

舟乃船毎舟踏も船乃事

和年

最法也之乃とくくむ乃水

舟屋

舟乃船毎舟踏も船乃事

舟屋

舟乃船毎舟踏も船乃事

舟屋

舟乃船

舟乃船毎舟踏も船乃事

舟屋

舟乃船毎舟踏も船乃事

舟屋

舟乃船毎舟踏も船乃事

舟屋

舟乃船毎舟踏も船乃事

舟屋

舟屋

ものりやけ乃ほほ風乃末

中野 猿維

草のよきしきく乃ま乃風乃

仙華

結りりし

野の場をほほ乃内ハ

野坡

此集のよきしきく乃ま乃風乃

月乃のよきしきく乃ま乃風乃

千のよきしきく乃ま乃風乃

野坡

秋のよきしきく乃ま乃風乃

新井

春のよきしきく乃ま乃風乃

夏のよきしきく乃ま乃風乃

秋のよきしきく乃ま乃風乃

冬

春

夏

秋

冬

夏朝之祭

首夏

臨うを乃東海人見し衣う

荒雲

衣うへ十口をやこいあはくう

作坡

綿をやぐ操ぬへせし衣文

九節

雀未わやれまはり也衣う

雪芝

衣乃泣けとえよほよの衣う

子冊

鹿乃乃暖るる白し衣う

が牛

う乃果

卯うう果やうき板え及ぶ

芭蕉

う乃う果の結るるをうん果門

去来

結るる

う乃果に其果のうん果門

詩二

卯さるるに和ありし西よしくり

五美

~~~~~

掉乃被と七う浪か下うあ

湖春

哉あ池池り甘もある心くふ

素景

うさ入りや竹さるる暮に老を鳴

芭蕉

~~~~~

宵すをち之階にねる侍しうん

柳屋

ほくさる一こそ鶴の夜明ふふ

其希

初燈を月さるおにえん侍さるん

嵐雪

挑灯のそに冷たし侍さるん

松風

まうおれてさあ掃もゆわほりん

芭蕉

青い中さるあるう~~~~~やうあ奴

素龍

時を争ひし風をふくたふる  
子規 新乃出されぬ捨る外  
野坡

麦  
抄るに麦穂いぬや化どり  
前口

麦  
麦凡穂と花にうそや飛渡山  
子川

麦  
麦江名甲穂也運き等とよ  
許六

新  
新玉 新乃穂行をいはさす  
利手

新  
新利とく 麦乃白ん也宿名内  
利手

新  
新時とく 麦乃白ん也宿名内  
利手

新  
新也 出ぬはしも新麦乃中  
野坡

新  
新也 出ぬはしも新麦乃中  
野坡

新  
新也 出ぬはしも新麦乃中  
野坡

新  
新也 出ぬはしも新麦乃中  
野坡

新  
新也 出ぬはしも新麦乃中  
野坡

瑞午

おりのや傘にけりし山人

其角

さく... 雲くみや也はさう風の色

大正 酒堂

五のきよふみ... みるあやめ

桃隣

文もたのしくもなりし... 探り祀

嵐雷

みを乃やも... 麓乃... 甲が道

仙花

帷子... ち... 後... 子

素秋

夏旅

雲松をみ... 町乃... 山

臥雲

扶... 舟... 之乃...

新原

二三... 翁...

壽州

多け... 乃力及... 女... 舟...

猿遊

ま... 比や... 舟... 舟...

芭蕉

ゆる... 舟... 舟...





五月雨

市井のれ也と云ふり入るるかきも候

土蔵

あまの志も色也と川大和川

柳橋

片これり少給をいささか

野坊

五月の也乃と云ふも

嵐山

ふみかた柳橋もさきくーぬ

あ月の也れも 花もりのり

盆水

涼

川中代根本にさるるおすみ外

芭蕉

月影にうこく夜も也さあのみ

女うさ

涼しけり候よさるる竹乃候

女お七

り槐を志しそとすもみ系

探芝

涼風をまねて涼しく候の也

智月

すしけをまねて候乃さるる

女元星

まじき 浮洲 若くは乃 侍と云

云来

夕もみ ありまき 石に乃 侍りくわ

野坡

とら 月を 陰りて せむし 侍る

未堂

新

栲也 之を 家 ぬら ぬ 侍り

松風

馬 中 ちり ぬ 破 幸 せ 侍る

白夷

世乃 中 也 年 貢 富 乃 侍 之

里本

子し 女 身 うち して せむ 大なる 侍る

山嵐

本多 侍りて

や せむ 侍る 也 侍 あり 甲 侍 侍る

詩之

あ 侍 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る

智月

そ 侍 侍る 侍る 侍る 侍る 侍る

山根

侍 乃 侍 侍る 侍る 侍る 侍る

山根

侍 侍 侍る 侍る 侍る 侍る

山根

侍 侍 侍る 侍る 侍る 侍る

山根

いされ蝶もうらりてわつあふ 楚丹

うりうり 頼しうき 残香

猪乃よりにり 乃有

園香、伝所乃あつさ か風

けいさふり 祐甫

一枝もすけ 仙花

竹もよわ 嵐雪

まゝ人 僕ら

わくし あまひ

わくし あまひ

あつら あまひ

あつら あまひ

酒 利牛

あ人のふ あまひ

あ人のふ あまひ

あ人のふ あまひ

行 野坡

まゝ人

僕

はをたしむるを

かゝし物あまひて後せしむるに

あつらふにそれをもあしあつら

あつらふと名あつらふありをえりて

あつらふせられんをえりて

酒のなまらつてあつらふ

利

あつらふにせられんをえりて

あつらふにせられんをえりて

あつらふにせられんをえりて

行中をねてあつらふ

野坡

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

the first of the first of the first

訃諧炭俵下巻



種之部

秋のつれいつたのやう  
月と較し時俵のたしと  
さうさう

名月

明月也 見つるもみぬるも

湖春

名月也 撮一取よるより 春の處

去来

家嘗てこころ見ゆる月也

存念

名月の清き鏡子達の影

西

お月や 影お揚し 月の光

里東

りら 月の影のらく ちよりの月

行年

家こころ 望むも 月の光

共角

おきの仲仕の月さしめ

見ゆる 望むる 不盡の影はと

明月也 不にみぬるも

去来

十文

船のくまはたかこちをなげきく

共角

田舎人よよめしをさかちかちの記

孤屋

とまぢちちちちちちちちちちち

嵐書

盡ち果る

あまのこころをうらみあまのこころ

伊達

師のまはははははははははははは

伊達

まのまのまのまのまのまのまのま

北

朝長

内田

朝長やまのぼろぼろぼろぼろぼろ

古差

あまのぼろぼろぼろぼろぼろぼろ

利人

あまのぼろぼろぼろぼろぼろぼろ

伊達

秋虫

虫いれとあるはくしうきうくす

春月

虫いれとあるはくしうきうくす

大中

塔帳よりくしうきうきうきう

みち

こころきやんきうきうきう

孤

舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

舟



帝

おとせのついでをえらぬ少座を

くわいし

府のふむはたせのついでを

ついでを

とにたやうなついでを  
座の長  
おとせ

秋 植 地



作のるらちをふとものふくら

作 牛

為栗やえりううし松野の甲

松 木

出向也 若子の扱めなうりうし

木 他

葉うしうてうふくらうて作の地 松 木

一の名を南蛮うしとてうら  
 ねうは世あえううしうりうら  
 よや 未詳 ううてうのううう  
 ハらうううううのうううう  
 うんうのううううてううう  
 うらやうううううううう  
 竹のうてううれん天資うり母の如  
 ううう 根あうううううう  
 ううう 石其うりうのううう  
 うのううううううううう  
 ううううううううううう  
 ううううううううううう  
 ううううううううううう



秋のゆく



秋のゆくも ぬきぬき 秋のゆくも 秋のゆくも

水田のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも 秋のゆくも

冬之郡

初冬

風や竹ふささしよ山のそら 共布

市中也木の葉も落すよし風 秋深

冬枯の根よと初雪と出らば 草堂

松木や流張よりし冬 玉梁

此の景のよれりきや小ねま 神楽

刈 蕎麦の粒のまをうむすよ 初雪

風やそよふといふよ 玉梁

夕よれや梅のしもよ 草堂

田や畛志けよ 八尋

あまふりて

木杭か泥よすや竹枝 皮を 柳院

雪一 月よ 雲の巻終りよ 神楽

時辰

早急の後へらへりし沙の

新口

思ふ神の可なりし

大平

さき道

わが茅のしよぬん

あふぬを今もいふ

新倉

左のうらむし

詩心

新倉の

あはれをいふ

あはれをいふ

あはれをいふ

あはれをいふ

あはれをいふ



わらわし  
はむさ  
...

入夢の夜をともるるは  
...

ふはれ先給ぬむらむ  
...

尋ふやふあふふふふふ  
...

...

きかともきくくくくくく  
...

美花ぬまむらむらむらむら  
...

右のくらむらむらむらむら  
...

...

...

...

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつたふとさうもあつたさう

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



題不知



さういさの物くあ色花形

蓮子人  
呂丸

とと重や物形ニテのしる 何み性

蓮花

花門の事そ花みりすすおひ

花大

花大枝の盛物ととと行し

花月

花うものそんさおんや形の花

花也

花のさやあつさ方の五右

花中

屋中やとと火能のある花

花中

花の

花はえしと神一

花

花く降く花やとと花の

花

しんせし

繁くしんせし 桐つる 女にま 道  
 旗押し せしんせし 八は 作ら 下  
 所つし せし 振と する 殿ん 少  
 山の せし せし せし せし 者  
 侍も せし せし せし せし 者

歌

こめしんせし せし せし せし 桐  
 せし せし せし せし 者  
 せし せし せし せし 者  
 せし せし せし せし 者  
 せし せし せし せし 者  
 せし せし せし せし 者

Handwritten text in cursive script, top line on the right page.

Handwritten text in cursive script, second line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, third line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line from top on the right page.

Multiple lines of handwritten text in cursive script on the left page, including the characters '體' and '體'.



終極一 註のさうねはらひぬ  
 房の下へも 葉さう、さうし  
 たるこの物付 桂のふりかた  
 夢のふみあひのさうとせて  
 りさふ ばあまの念のうらり  
 家の縁のあしこし  
 なるまのがさきさき ぬやうな  
 あうことらへ 小信らかふ

家のまきまき ねもさうらひて  
 夢さきさきさき ぬやうな  
 君さおんこつねはあひのあさ  
 輝と燈とのけあつ  
 三平 味へ 雀のこり  
 かかりけれぬ月のさ  
 紙燭して 夢さきさき  
 上 陰さきさき ぬやう

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Small handwritten characters or initials on the right margin.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Small handwritten characters or initials on the right margin.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.



Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

天中氏母方

柳部

るるりぬらぬらしきききききき

之しししししししししししし

入目しおんぬぬぬぬぬぬぬ

海の外まきし物のみらるる

初まらわらわらわらわらわら

しししししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

此のまきししししししししし

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

柳部

おのゝしと念仏とてはらふまのり  
新牛

野よりのしりきとてあそび  
新牛

へのお負つたえふまふあそび  
新牛

おえおふしとてしとてあそび  
新牛

おのそとの様ふち物へあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛

おのそとのおととてあそび  
新牛



焼物一 紅念一 家回 終

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

焼物 終んして今もぬく

初終

沐て日暮

やう川をくす一具

芭蕉

振舞の唇はうれしきいふ  
 障てハ かつしつ支する新  
 支舞の後の小ををけうて  
 川とちふり月をみるま  
 ねねの唇を結まぬ あまの風  
 新木のあまの風のさうさ

芭蕉

芭蕉

新牛

芭蕉

芭蕉

網の老をつこふりあまうりて  
 皇とくろくろく 二十ハ  
 いんまてハ 新軍のたろし  
 漢のちよと新後ととぬ  
 明もむ 氣無行を吹消し  
 肩立癖もちろ ぼんぬの青葉  
 上をまの干葉刻もうのみ  
 ろくろく 出ぬ日を ぬて ちよ

新牛

芭蕉

芭蕉

芭蕉

芭蕉

新牛

芭蕉

芭蕉

緋裳の七つはるりと暮つた

利平

湊の門あらふ平石元

孫五

は、橋の海老とよと猪月と赤

甚直

砂よ 晴のうつくしき年

孝信

新島の喜もおらうくさのよ

孫五

吹さらんしとささるよと

利平

川島の岸のふをあらまの

孝信

平地のきめりてきき

甚直

干ぬと日向のきくしとせと

利平

塔あし野の巻ふとくさる

孫五

美月よほせとささる

甚直

ふみはらふよとささる

孝信

ささるよとささるのうのぬ

孫五

ささるよとのむねのたさる

利平

中よとて信実 人の信りやの

孝信

聖とよとささるよとささる

甚直

芭蕉

野

飛

和

25 6 16

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

芭蕉の和歌集  
芭蕉の和歌集  
芭蕉の和歌集  
芭蕉の和歌集  
芭蕉の和歌集

和歌集  
芭蕉  
芭蕉  
芭蕉  
芭蕉  
芭蕉



杉風

平野の松林は口みじとあうし  
 日のあけよへのあけとあらし  
 が音を一手信よすかき  
 ありとよしし人名の信  
 ゑすあはれあふづく為丹お  
 雲をいしれてひるささる化

松林  
 丹波  
 丹波  
 丹波  
 丹波

熱谷の院しれよあめよ  
 笑らいらららと響きき  
 ことあてはれおしぬの松  
 きのきききききききき  
 竹のはきききききききき  
 移よるのききききききき  
 よああああああああああ  
 ありありありありありあり

松林  
 丹波  
 丹波  
 丹波  
 丹波  
 丹波  
 丹波  
 丹波  
 丹波

そあへの月をかざりて流るる

脊中へのめりく 雲をさへはゆる

星はしらのかげにうへよまらりて

川へさすくよ小鮎 りりり

名  
あはれきとれしき 雲をさへはゆる

春日へさすくよ けりりり

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

伝

柳

子

石

杉

松

松

松

けいもをゆき 候へりりり

かざり ちをて 葉代めれ

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

あはれきとれしき 雲をさへはゆる

柳

松

松

松

松

松

松

松

しちめらぬ草のりぬのりけり  
次の小結をりつしむるる  
新重しうみりぬれぬ改し合  
さのいねやをるるし  
あのみあしよ内よ降し  
甲すのりきさえりし

子規  
利平  
るる  
杉風  
柳原  
草水



松凡 五  
高尾 二  
芭蕉 一  
ふ煙 五  
柳勢 四  
利平 二  
草水 二

野波 二  
孤圃 二

名集 三

利合 二  
依 二

草水 二

撰者芭蕉門人

志在氏

野

坡

孤

屋

池田氏

利牛

九祿七歲次甲戌

六月廿八日





